今後の感染症対策について

令和7年4月1日
日本赤十字広島看護大学

新型コロナウイルス感染症が感染症法上5類に類型変更されて約2年が経過し、医療体制を含め、さまざまな対応が平時に戻る中、本学における感染状況等をふまえ、これまで本学が講じてきた特別な感染症対策を見直し、今後は次のとおり対応することとします。

なお、本学は、人の生命と健康に関わる看護学を学ぶ大学であり、臨地実習をはじめとした学修に影響が生じないよう、引き続き一定の感染症対策については継続します。

学生の皆さんは、看護学を学ぶ者としての自覚と人を気づかう心をもって、感染症対策にご協力ください。

1 感染防止対策について

- (1) 学内では、基本的な感染防止対策をお願いします。
 - ア 施設内では、不織布マスクを着用してください。
これは大学からの推奨であり、着脱はあくまで個人の判断に委ねて強制するものではありません。また、マスクの着脱を理由に大学が不利益な取り扱いをすることはありません。
なお、看護演習の授業等では、看護現場を再現するため教員が着用を指示することがあります。
 - イ こまめに手洗いや手指消毒を行ってください。
 - ウ 教室や演習室で複数の人といる場合は、窓開けや換気装置（ロスナイ・換気扇等）による換気を行ってください。
- (2) 「密閉」「密集」「密接」の場はできるだけ避け、難しい場合はマスクの着用を検討してください。また、バス等の公共交通機関では、混雑の状況をみてマスクの着用を検討してください。
- (3) 毎朝の検温など、自分自身で健康管理に努めてください。
- (4) 医師から感染症と診断された場合（「疑い」を含む。）は、必ず教務学生課まで連絡してください。

2 授業について

- (1) 実習については次のとおりとしますので、担当教員からの指示に従ってください。
 - ① 臨地実習は、受入施設と調整して実習前の期間を含めて必要な感染防止対策をとった上で実施します。
 - ② 受入施設の感染拡大等で臨地実習が困難な場合は、学内実習に切り替えます。
 - ③ 実習中の学生の感染が判明した場合は、受入施設の指示により対応します。
- (2) 感染症で授業に出席できない学生を対象に遠隔授業を行うことはありません。

3 施設の利用等について

- (1) 食堂
パーティションについては撤去しますが、可能な限り間隔をあけて座るなど引き続き感染防止に配慮してください。
- (2) 図書館・さくらコモンズ・実習室・多目的室等
利用制限はありませんが、前記1（1）に拠ってください。
- (3) 保健室・学生相談室
 - ア 保健室は、保健室職員がドアを開けるまで入らずに外で待機してください。
 - イ 学生相談室は、希望する場合にはオンラインや電話でも対応しますので、保健室で予約の際に申し出てください。